

● 教室(診療科)の特色 ●

伝統的な臨床精神医学を基礎として、プライマリケア精神医学と地域の基幹総合病院精神科としての総合病院精神医学の追求にあります。その際、精神疾患を生物—心理—社会—倫理的なモデルとして包括的にとらえ、偏りのない精神科、すなわち mindless psychiatry あるいは brainless psychiatry に陥らない精神科を目指しています。

精神科病床は40床で、精神保健指定病床を5床有し、措置入院への対応も可能です。また、大阪府精神科救急システムのなかで身体合併症治療の指定病院となっており、総合病院精神科として重要な位置を占めています。外来は、1日平均患者数は約120名であり、診療においては精神疾患全般にわたって対応しています。



米田 博(よねだ ひろし)教授(科長)

- 専門分野
機能的な精神病
- 主な学会／専門医資格
精神保健指定医・臨床遺伝学専門医・日本老年精神医学会認定医・精神神経学会専門医
- 研究課題
臨床精神医学、精神科遺伝学

● 教室(診療科)の概要・特徴 ●

特定機能病院ということを生かしながら、入院診療(開放・閉鎖病棟40床)と外来診療を行っています。大学病院らしく特化した専門領域の診療、例えば性同一性障害、PTSD、強迫性障害、てんかん、認知症、児童思春期などが特徴ですが、一般精神科診療も精力的にこなしており、精神保健指定医や精神神経学会の専門医を取得できる体制になっています。また関連病院も多く、地域での精神科医療の研修もできます。研究は精神科遺伝を柱として睡眠覚醒障害、精神薬理、てんかん、児童思春期などのグループがあり活発に活動しています。

● 教室(診療科)指導医・上級医 ●

氏名(職掌)	専門医	研究課題等
康 純(准教授)	精神保健指定医、精神神経学会専門医、一般病院連携精神医学専門医	精神科遺伝学、性同一性障害
金沢徹文(講師)	精神保健指定医、精神神経学会専門医	精神科遺伝学、臨床精神医学
川野 涼(助教)	精神保健指定医、精神神経学会専門医	てんかん、臨床精神医学
木下真也(助教)	精神保健指定医、精神神経学会専門医	性同一性障害、臨床精神医学
山内 繁(助教)	精神保健指定医、精神神経学会専門医	老年精神医学、臨床精神医学
他 助教8名		

- 連絡先：大阪医科大学神経精神医学教室 TEL:072-683-1221
 ■ ホームページ：<http://www.osaka-med.ac.jp/deps/psy/>

初期臨床研修プログラムの特徴

研修医の目的に合わせて、研修は2ヶ月コース、6ヶ月コース、12ヶ月コースの3種類。

- ・2ヶ月コースでは臨床医として必要な基本的な精神医学的知識、技能の習得を目的とします。
- ・6ヶ月、12ヶ月コースにおいては、基本的な知識の習得に加えて、①精神科特有の疾患・代表的な疾患の診断や治療、②総合病院精神神経科としての特徴である身体合併症を有する疾患への対応やコンサルテーション・リエゾン活動、③専門外来での研修、などの経験を通じて幅広い精神医学的知識、技能の習得を目的とします。

研修内容と到達目標

<12か月コース>

- ・精神症状のとらえ方の基本を身につける。
- ・精神疾患に対する初期対応と治療の実際を学ぶ。
- ・身体疾患に合併して生じる精神疾患・症状の診断や治療の実際を経験する。
- ・デイケアなどを通じた社会復帰や地域支援体制を理解する。

研修を通じて、到達目標に見る代表的な精神・神経系疾患(7項目)の研修を重ねる。外来では予診の取り方、初診担当医のもとで面接法、診察手順、検査、投薬などを学ぶ。病棟では主治医として症例を担当し、精神療法的アプローチや薬物療法を経験する。入院、退院に際しては、精神科独特の法律の規定とその運用、遵守などについても学ぶ。総合病院の特性としての他科との連携や、身体合併症を抱えた症例への対応、コンサルテーション・リエゾン、緩和ケアチームへの参加も求められる。

また地域医療研修として、1ヶ月の関連病院での研修が含まれる。大学病院のような総合病院とは異なった、地域医療の実際を経験する。

当科は多数の専門外来を備えており、各研修医の希望に応じて専門的知識の習得にも対応する。さらに本コースを希望する者には、各研究グループが主催する勉強会や輪読会への積極的な参加を求める。

これらの研修により、将来臨床医として求められる基本的な精神科的知識の習得に加え、主治医として入院患者の診察、検査、診断、治療に積極的に取り組むことにより、幅広い精神医学的知識・技能の習得を目標とする。

<6か月コース>

本コースの内容、目的は、12ヶ月コースと同様である。関連病院での1ヶ月間の地域医療研修も含まれる。

<2か月コース>

このコースは、研修の内容を外来業務に置き、一般外来診察に加えて、コンサルテーション・リエゾン活動にも参加を求める。研修医の希望に応じて、専門外来での研修も可能である。これらの研修を通じて、将来臨床医として求められる基本的な精神科的知識、技能の習得を目的とする。



研修病院群

大阪医科大学附属病院
 新阿武山病院
 新淡路病院

評価方法

実際に担当した患者はすべて実績表に記載し、指導医の検閲を受ける。また研修期間終了時には、評価表と別に定めるチェックリストを科長に提出する。

週間スケジュール

月曜日	病棟回診 入院カンファレンス、演習
火曜日	外来診察 病棟にて患者診察
水曜日	外来診察 病棟にて患者診察
木曜日	外来診察 病棟にて患者診察
金曜日	外来診察 病棟にて患者診察
土曜日	外来診察 病棟にて患者診察

後期研修プログラムの特徴

精神医学全般の知識と臨床能力および技術を修得することを目的とし、精神科専門医、精神保健指定医の取得を目指します。また当科はてんかん、認知症性疾患、性同一性障害、児童思春期症例、パニック障害などの専門外来を有しており、より専門性の高い疾患の診断・治療に関与し、各分野の専門医へのステップにもなります。

研修プログラム

<3年目～5年目における研修方法>

プログラム指導責任者:科長 米田 博

<3年目>

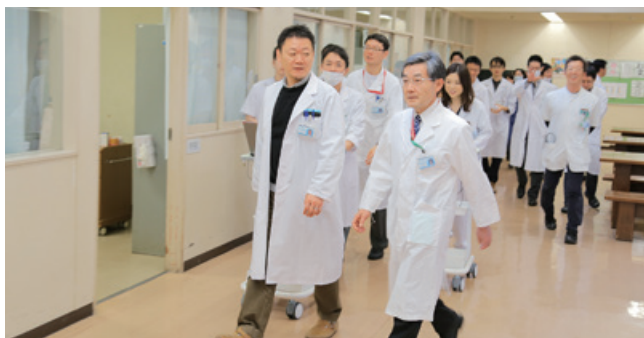
精神科領域専門医制度に則ったプログラムに沿って3～5年目の研修を行います。3年目は研修基幹病院である大阪医科大学附属病院精神神経科で、精神疾患全般にわたる入院患者を病棟指導医のもと診察します。外来診療では初診、再診担当医の指導のもと、予診、シュライパーを行いながら診療に加わり、指導を受けます。精神疾患全般の病態の理解、的確な精神症状の把握、診療録記載、診断・治療計画を含めた症例呈示を行えるよう、カンファレンスなどで指導を受け、勉強会への参加も行えます。各疾患に対する薬物療法、精神科リハビリテーションを学び、また精神保健福祉法の理解と遵守について学びます。文献の検索法、論文の精読、EBMの手法について学び、基礎的な、あるいは最新の知識や成果を学び、興味ある症例については関連学会(近畿精神神経学会など)で報告します。

<4～5年目>

4～5年目は研修連携施設をローテートして研修します。連携施設は一般精神科臨床を専門とする機関で、スーパー救急病棟や児童精神科病棟、メンタルケア病棟を有する病院、アルコール依存症の専門入院病棟を有する病院、認知症疾患医療センターとしての役割を有する病院、精神科デイケアやショートケアを通じて地域での生活支援スキルを学べる病院、併設されたグループホームや訪問看護ステーションとの連携を学べる病院、また僻地における精神科医療を担っている病院など、それぞれ特色のある機関での研修を行います。これらの施設をローテートしながら研鑽を積み、臨床精神科医としての実力を向上させつつ、専門医を獲得することを目指します。

プログラムに参加する医療機関等

大阪医科大学附属病院 精神神経科



先輩レジデントのコメント

岡山 達志 平成26年度レジデント

仕事面でも私生活でも充実した時間を

2011年に大阪医科大学を卒業し、2年間京都市内の市中病院で初期研修を行った後、後期研修で大阪医科大学に戻ってきました。

学生時代から精神科に興味を持ち、将来は精神科医になろうと決めていたのですが、学生だったこともありどこの病院で働くかなどは全く考えていませんでした。5回生、6回生の実習で精神科を選択した際にとっても雰囲気がよく、また教育体制もしっかりと整えられている当科を見ている内にここに入ろうと決めました。

後期研修が始まると大学病院での勤務のほか、週に2回は非常勤先での勤務という生活になります。非常勤先では、慢性疾患の方であったり、アルコール依存症の方であったりと普段大学病院では診ることのできない方をたくさん診ることができ、大変勉強になります。また、非常勤先でも教育はしっかりとしていますので有意義な時間が過ごせます。

大学病院では電気けいれん療法やクロザリルといった治療もやっており他施設ではなかなか経験できないようなことを経験できます。もちろん従来の薬物療法も重要なのですが、こういった治療法による症例を経験することで自身の視野を広げることが出来ます。また総合病院であるのでリエゾン・コンサルテーションなど身体疾患に伴う精神症状のコントロールを依頼されることが多く、精神科医のニーズの高さを感じることもできます。他にも大学院という研究機関も整っています。自身が研究をするしないに関わらず、同じ職場に研究をしている先生がいるだけでも様々な刺激を受けることができます。研究をするならば、基礎医学を学ぶ事ができ論理的な考え方で臨床ができるようにもなります。

大学病院は若い人が多くにぎやかで、先輩後輩との交流が多いので楽しく仕事ができます。また、オンとオフの切り替えがしっかりしていますのでプライベートもとても充実した時間が過ごせます。

精神科医としての成長という点でもプライベートを楽しむという点でも当科は本当にオススメなので、是非一度見学に来てみてください。



取得できる認定医・専門医

精神保健指定医、日本精神神経学会専門医
日本総合病院精神医学会認定専門医
日本老年精神医学会認定医 その他多数

参加学会等

日本精神神経学会／日本生物学的精神医学会／日本総合病院精神医学会／日本臨床精神神経薬理学会／日本老年精神医学会／日本てんかん学会／日本緩和医療学会／GID(性同一性障害)学会
その他多数

大学院における教育・研究活動

教育・研究指導方針

近年、精神医学は社会の変化を反映したいわゆるストレス関連疾患の他、従来からの中心的な課題である内因性精神病、老年期精神障害、睡眠障害、児童思春期疾患への新しいアプローチも成果を収めつつある。そこで急速に発展している遺伝子解析などの研究手法を用いて、精神疾患をbio-psycho-socio-ethical なモデルとして、包括的に病態を把握できるように、実際の症例や研究を通して学ぶ。

現在の研究テーマとその概要並びに展望

㊦ 遺伝研究／米田 博、金沢 徹文

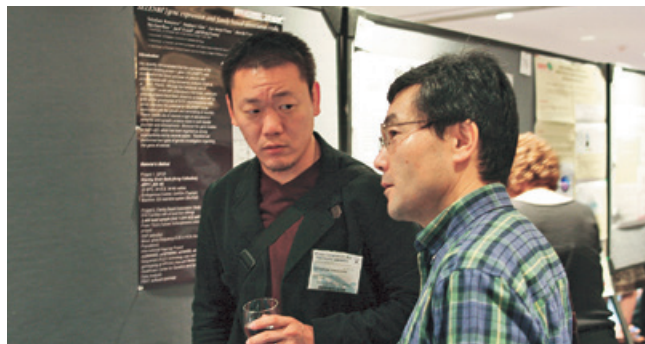
遺伝研究は家系研究、家族歴研究、双生児研究など臨床遺伝学的研究を教室開設以来継続して行っている。さらに、統合失調症、感情障害、アルコール症、アルツハイマー病を中心として、DNA レベルの最先端の研究を行っており、これらの疾患の病因遺伝子の解明を目指している。このうち、統合失調症、感情障害、アルツハイマー病、アルコール症では、病的遺伝子にせまる重要な発見があり、その成果は国際雑誌に発表した。このように臨床遺伝学から分子遺伝学まで、包括的に精神疾患の遺伝要因の解明に向けた研究を行っている。

㊧ 神経精神医学、神経化学研究／米田 博、川野 涼

神経精神医学・神経化学研究は、統合失調症やてんかんなどの疾患を対象に研究を進めている。てんかん研究は、神経生理学的方法や神経放射線学的方法を用いた研究を進めている。統合失調症研究は、神経心理学的、神経学的手法を用いて統合失調症の認知障害と精神症状、治療反応性、予後や抗精神病薬の副作用などとの関連の研究を進めている。またマウスに各種向精神薬を負荷してmRNAの発現をノーザンブロット、in situ hybridization によって検討している。さらにプロスタグランジンや一酸化窒素など諸物質の睡眠・覚醒制御機構における役割を追究している。

主なる関連病院

新阿武山病院／新淡路病院／小曽根病院／藍野花園病院／赤穂仁泉病院／金岡中央病院／水間病院／川越病院／瀬田川病院／寝屋川サナトリウム／丹比荘病院／青葉丘病院／阪南病院／香良病院など



㊨ 児童思春期疾患研究／米田 博、堤 淳

登校拒否、摂食障害などの児童思春期疾患は、成人における精神障害と比較してその症状や治療的対応が異なり、疾病の理解も内因性、心因性というように割り切って考えることが困難なことも多い。そこで、これらの疾患に対応するために特殊外来が設けられている。そこでの臨床を通して、児童思春期疾患の治療、予後、下位分類などについての研究を続けており、精神病理学的立場からの研究も進めている。

